

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>■思いやりやおもてなしのあるまちへ 熊本市は素敵なまちに変わってきていると思うが、外見だけでなく、思いやりやおもてなしなどの中身も大事である。新しい商業施設は年配の方が買い物の際に戸惑うこともあると思うので、利用しやすい施設を増やしてほしい。</p>	<p>〔市長〕 まちが変わるのは大きな効果があると思っている。おっしゃる通り古くて馴染みの商店街がずっとあるのは安心や安らぎにつながる。その一方で、施設がリニューアルすることで、人が集まりやすくなる面もあり、選択肢が増えることはまちの魅力向上となる。何でも新しいものがないというわけではないので、懸念されているようなことにならないよう、まちづくりを進めていかなければならないと思っている。</p> <p>-----</p> <p>【商業金融課 追記】 ご意見の商業施設における思いやりやおもてなしなどソフト面の対応については、施設毎に総合案内の設置や館内を案内するスタッフを配置するなど、利便性の向上に努められている。 また、商業施設のハード整備に関する内容については、新たな大型商業施設の立地に際し、周辺の地域の生活環境の保持のため、店舗ごとに専門家を交えた協議会にて審査を行っている。施設を安心してご利用いただけるよう、協議の過程では、歩行者の動線の確保・駐車場へのスムーズな誘導・車いす利用者用駐車場の確保など、利用者の目線に立った施設となるよう、店舗側へ意見を通知している。 いただいたご意見については、今後の協議において参考にさせていただきたい。</p>	経済観光局	商業金融課
2	<p>(1) 公共交通機関の無料化の影響について 桜町バスターミナルのオープンに伴う9月14日の公共交通機関の無料化により、ショッピングセンターで一番影響があったのは天草で、15%くらい売り上げが落ちた。八代もそうだが、無料化の影響があった。熊本市周辺では嘉島、光の森に大型ショッピングセンターがあるが、ほとんど影響はなかったようだ。</p>	<p>〔市長〕 例えば熊本のまちなかが賑わった一方で、天草や八代など近隣への交流・売上が落ちたといったデータがあるなら、そういうデータをもとに行政でも対応を考えていかないといけない。今回は人の流れについては熊本市や民間企業でいろんな分析をしているが、どうすれば全体の効果や賑わいが増していくのか考えていきたい。</p>	都市建設局 経済観光局	交通政策課 経済政策課
	<p>(2) イベントの情報発信について 新しい商業施設や熊本城ホールができたことで集客できる魅力あるまちになると思うが、イベントの情報発信の手法をどうするのが課題。以前、島原に住んでいたが、島原の高校生や交通弱者は、長崎市より近い熊本に買い物に来る。そういうことも含め、ターゲット設定やプロモーションのあり方を考えないといけない。 それから、市政だよりも魅力がない。もう少し区ごとにページを分けるともっと盛沢山で写真も載せられるのではないか。</p>	<p>〔市長〕 イベントの情報発信が弱いのご指摘だが、例えば市政だよりについては、これまでも改良を重ねてきた。区毎のページも作っているが、もともとは区で別々に出していたものを見やすいように統合したもの。全部の情報を詰め込むことはできないので、もう少し情報を整理して、皆さんが見やすい、分かりやすいものにしたい。 ホームページももう少し集約してお知らせできるようにしたい。今は多くの方がスマホをお持ちなので、スマホ版の市政だよりも公開しており、分かりやすく見ていただける手法を模索しているところ。特に地域性を出していくことが大事だと思っているので、例えば区毎のページの内容を充実させたり、新聞やケーブルテレビなど、ローカルメディアでの発信も行っていきたい。 広域からの集客という点では、熊本ではよく鹿児島の水族館や大分の宿泊施設、長崎のテーマパーク等のCMが流れているが、例えば福岡で熊本市の動植物園や熊本城のCMは流れていない。域内のお客さんだけをターゲットにするのではなく、できるだけ広く多くの方に来てもらうことを考えることは非常に重要で、現在、そうした戦略として九州エリア全体に熊本の情報を発信する手法を考えているところである。</p>	政策局 経済観光局	広報課 観光政策課
	<p>(3) 核となる観光資源の活用について 熊本の弱点は熊本駅に魅力がないことであつたが、2年後くらいには魅力あるものになっていく。今後、熊本駅と熊本城の2つが大きな核となり集客できると思うが、消費量は歩く距離に比例するので、熊本駅と熊本城の間を快適に歩ける空間にすることが重要。一町一寺といったものも含めて、いかに魅力を外部に発信していくのが重要。ただ電車やバスで往来するのではなく、片道は電車で片道は歩くなど、熊本駅と熊本城の間をいかに歩いてもらうかを考えることは市の役割の一つと思うので、よろしくお願ひしたい。</p>	<p>〔市長〕 欧州を視察して明らかに違うと思ったことは、交通手段が電車、バス、自転車、徒歩、何であれ、意識せず気軽に乗り換えたり選んだりできること。例えばストラスブールでは、全ての交通手段を集合体として一つの事業者が運営・経営しており、ある地点の乗り継ぎをよくしようと検討する際に一元的に決定できるなど、随分仕組みが違う。 片道は公共交通、片道は歩きというお話が出たが、町の中に楽しみながら散策できるポイントがあることを知ってもらうために表示を整備するなど、様々な工夫をしながら取り組んでいきたい。</p>	都市建設局 経済観光局	都市政策課 交通政策課 都市整備景観課 観光政策課

No.	ご意見	回答	局	担当課
3	<p>■市電の輸送量について サクラマチ熊本などがオープンして市内は盛り上がっていると思う。通学で市電を利用しているが、観光客や外国人が増えている中で、今までの市電の輸送量と、増えた観光客のための輸送量のバランスをどうとっていくのか。</p>	<p>〔市長〕 通町や健軍などでは、お客さんが電停にあふれて市電に乗れない状況が増えているため、輸送量の強化をしなければいけない。輸送密度が熊本市電は弱い。 2両連結の車両を朝夕のラッシュ時に走らせるようシフトしているが、古い車両が多いので、これを新しく、段差もなるべく少なくしていこうとしている。ところが市電は発注してから納品まで何年もかかるので、工夫をしながら輸送量をアップしていく必要がある。欧州では5・6両連結で300人乗れる車両があるが、熊本市電は1両で数十人であるため輸送量を増やす検討を行っていく。</p>	都市建設局 交通局	交通政策課 総務課
4	<p>■自転車の活用について 熊本市に転入してきたばかり。自分は自転車が好きで、外国人の方も自転車を活用している姿をよく見かける。以前住んでいた福岡では、自転車のレンタルが盛んであった。歩くと疲れ移動距離も短くなるし、公共交通はお金がかかるので、その中間の自転車を活用すれば遠方にも行くことができ、外国人の方にとってもメリットがある。観光にとっても自転車の活用は必要と思うので具体的な策をお聞かせいただきたい。</p>	<p>〔市長〕 福岡のほうが自転車が活用されている印象があると思う。熊本でも一時期レンタサイクルを実験的にやっていたが、当時はほとんど利用者がいなかったため、議論の結果、一旦中止して手法を検討することとした。一方、通勤・通学で自転車を使用する方も多く、自転車で走りやすいまちかどうかは重要。自転車と歩行者との事故が多いという面もある。 欧州では自転車政策が徹底され、いたるところにレンタサイクルがあり、スマホやカードで決済できるように整備されている。しかも自転車専用のレーンがあり、そこには歩行者は危険なので入れない。そういう部分はバランスをもって整備されているという印象。 熊本では例えば「白川ちゃりんぼみち」という白川沿いに、自転車と歩行者と一緒に通行できるような道路を整備しており、エリアも広がっている。熊本大学のある黒髪から白川沿いを通り、熊本駅やまちなかに行きやすく、かつ駐輪場も安く利用できると考えると、安全性の面からも利活用できるスペースだと思っており、国とも連携して走りやすい場所を増やしていく。そしてそこを拠点として、駐車場や市電があればパークアンドライドにつながる。 自転車の活用は健康にもつながるし、交通手段として利用しやすく、安く、しかも環境にやさしい。交通政策の一環で、交通手段を限定せず人が移動するということを考える必要がある。やはり高齢者も若者も移動しやすいまちが理想なので、そのためにも自転車の活用はこれから積極的に進めていきたい。</p> <p>----- 【土木管理課自転車対策室 追記】 令和2年3月末で「白川ちゃりんぼみち」は、白川橋～明午橋間、子飼橋～龍神橋間が開通する予定である。なお、令和2年度中に「（仮称）熊本市自転車活用推進計画」を策定することにしており、今後も自転車走行空間の整備など自転車に関する施策を進めていく。</p>	都市建設局	自転車対策室
5	<p>■外国人観光客をターゲットにした観光戦略について 最近唐人町にオープンしたカフェが、新聞やメディアに取り上げられ盛り上がっている。外国人も比較的東南アジアの方が多く、SNSで調べて来る人が多いようだ。これからの外国人観光客は、東アジアからのスマホ世代が増える。そうしたターゲット設定をしっかりと議論していただきたい。 国内の観光マーケット全体で、もう外国人の消費額は国内の日帰りの消費額を抜いている。もう日帰りの時代ではない。大型観光バスの駐車場のことも大事だが、これから伸びると予想されていることに対して官民での連携が必要。他の地域には域外からお客さんが来る一方、熊本では域内への情報発信ばかりでお金を落とす人が域外から増えないということになれば残念。「だれもが訪れたいまち」にするために、いかに域外から、外国人に来てもらえるか。世界に開かれた城下町にしていいただきたい。 熊本城や水前寺公園も、訪日外国人にとってどういう見てもらい方、体験の仕方、活かし方をすることが重要。インバウンドに特化して議論したり、研究したり、知恵を出してセッションしないといけない。インバウンドを中心として域外からの需要を受け止める観光戦略を官民連携で進めていただきたい。</p>	<p>〔市長〕 唐人町のカフェに外国人観光客がSNSで調べて来られるとのことだが、最近は海外に行っておいしい店を探したいときはスマホで探すことができる。インバウンドの目線で考えたときに、何が不便で、何が求められているかを知ることがはすごく重要。 「世界に開かれた城下町」という大きなフレーズはとても重要で、個人が発信して世界に広がる時代なので、市民の皆さんもぜひ熊本のいいところを世界に発信していただきたい。内向きの発信ではなく、世界につながっているという認識を常に持つ必要がある。 昨年、日仏自治体交流会議があったが、日本に初めて来たフランス人たちが熊本を訪れ、なんと素敵なまちなんだと帰られた。また熊本、日本に来たいと言われていた。熊本のまちは大都会ではないが、こじんまりとして魅力的な、熊本的なものが詰まっている。そのことを外向きに発信する必要がある。 ホテルが足りないという話もあるが、5つ星ホテルの誘致の一方で、ラグビーW杯での経験も踏まえイベント民泊のようなものも検討していかないといけない。 ご意見のとおり、どういうふうに熊本を見てもらいたいかを考える必要がある。インバウンドに特化したり、あるいは九州など広域エリアで国内旅行者向けを検討したり、さらには年齢層も含めターゲットをよく考える必要がある。</p>	経済観光局	観光政策課

No.	ご意見	回答	局	担当課
6	<p>■質の高いナイトライフについて ある量販店ではインバウンドのお客さんが多いが、福岡では売り上げの60%がインバウンド。時間帯でいうと、21時から23時がピーク。売り上げのゴールデンタイムはアフターディナーという言葉があるが、食事が終わってから、熊本市内で21時から23時までで空いているところ、遊べるところがどれだけあるのかがこれからの課題。そういうナイトライフという部分では、ゴールデンタイムのアフターディナーをどうしていくか、語り合う時間をとった方がいい。</p>	<p>〔市長〕 欧州視察の際、フランスでは夕食後でもお店が開いており、選択肢がたくさんあった。熊本で、夕食を食べた後みんながどういう行動をしたいかというときに、熊本城が夜開いていたら素敵だと思う。中には入れなくても、そういう夜景スポットがあるといい。 フランスではアップルストアが夜の景観の名所になっているなど、夜見て回るところがあることは重要。ただそれだけではお金が落ちないので、そこでお酒を飲めたり、お土産を買えるような場所が開いているといいと思う。 質の高いナイトライフというアクティビティを考えがちだが、飲食店などの魅力を高める対策を行政でも考えていきたい。インスタグラムなどのSNSを見てると、サクラマチ熊本の夜景を写した写真が最近増えてきており、一つの名所になってきている。これから整備を進めるシンボルプロムナードがとても素敵な空間になれば、もっとどんどん発信され、全国、海外の人たちに熊本の魅力に気付いてもらえるようになる。</p>	経済観光局	観光政策課
7	<p>(1) 熊本市総合計画の実現性について 熊本市総合計画では、「熊本の魅力の創造・発信」として、「ストーリー性を持たせた観光ルートの設定」や「おもてなし向上など観光客の受入れ体制整備」という項目を2016年に設定されているが、熊本市として、この計画の実現性がどうなっているのかをお尋ねしたい。</p>	<p>【観光政策課 回答】 「ストーリー性を持たせた観光ルートの設定」については、熊本ゆかりの著名な人物と観光地を結びつけたストーリー性のあるパンフレット等を作成するなど、熊本の魅力の創造・発信を行っており、特にインバウンド対策として、欧米豪の外国人に人気の高い宮本武蔵などの「サムライ」を題材とした伝統文化体験等のツアーを造成した。 また、「受入態勢の整備」については、ラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界大会の開催に合わせ、民間施設のトイレの洋式化や多言語対応などに対する助成制度を創設したほか、今後は、本市の代表的な観光地であり多くの外国人観光客が訪れている熊本城・水前寺成趣園及びその周辺エリアを重点的に整備する予定としている。</p> <p>【熊本城総合事務所 回答】 熊本城では昨年秋から特別公開を開始し、着実に復旧に進んでいる姿を県内外の方にご覧になっていただいている。今後も熊本城の復旧を進めるとともに、特別公開や復旧の過程で得られた調査研究成果の情報発信を通して、熊本城の歴史的文化遺産としての価値や魅力を発信していく。</p>	経済観光局	観光政策課
	<p>(2) 名所旧跡を紹介する散策道の整備について 新幹線の開業前に、私は五福公民館で郷土史の先生と講座を立ち上げ、熊本駅西口広場から、歴史的背景の宝庫である万日山、花岡山、高麗門通り、北岡自然公園、それから古町・新町を通過して、熊本城の頼当門までの名所旧跡を紹介しながら30名ほどの受講生を引率した経験がある。 そこで提案であるが、万日山の頂上に現在松橋町にある熊本県の博物館ネットワークセンターを持ってきて、万日山から花岡山に散策道を整備する、または新幹線口から高麗門通りを通過して北岡自然公園まで散策道を整備したり、熊本城で新町・古町の名所旧跡を紹介するなどしてはどうか。そういうプランが「訪れてみたいまちづくり」につながるのではないかとと思う。</p>	<p>〔市長〕 熊本駅から桜町やお城の方に向かってストーリー性のある回遊ができれば素晴らしいと思う。また、春日の方から新町・古町界隈に向かって魅力を向上するのはいいことだと思う。歩いたり公共交通で楽しめるストーリー性のあるまちを作っていくことは大事なことで参考にさせていただく。 それから万日山や花岡山の上から熊本市を一望すると、すごく素敵な景色である。一方で景観上課題があるところもあるが、綺麗に整備され、歩きやすく、夜でも安心して歩けるようになり、夜景の名所になったりすると、また違った熊本駅の賑わいも生み出せるのではないかと。 万日山の上に熊本県博物館ネットワークセンターを移すことは現実的にはこたえにくいですが、そういう場所としてのポテンシャルはあるとは思っている。新幹線口からの動線も含め十分検討していきたい。</p>	経済観光局	観光政策課
			都市建設局	熊本城総合事務所
			都市建設局	熊本駅周辺整備事務所
				西部土木センター道路課

No.	ご意見	回答	局	担当課
8	<p>■夜間の野外劇について 熊本城の二の丸広場や長堀あたりで、夜間に野外劇を開催してはどうか。観光客に熊本に泊まってもらうためには夜のイベントがあった方がいい。日本の最後の内戦となった西南戦争では、西郷隆盛が、明治政府に負けたのではなく加藤清正に負けたと言ったと伝わるなど、熊本城は難攻不落の城ということもあり、そうした歴史的な事実を踏まえたシナリオを作って二の丸広場や長堀をバックとした夜間の野外劇を開催してはどうかと思う。</p>	<p>〔市長〕 夜間の野外劇は海外でも行っているところがあり、そういうことも参考にしていきたい。例えば復興映画祭で、熊本出身の行定監督が二の丸で大きなスクリーンを置いて上映されたが、みんなで映画を見るという光景が素敵であった。二の丸は特別史跡なので使用の制限もあるが、シナリオがしっかりして歴史的なストーリーを感じさせるものであれば可能かもしれない。西南戦争は日本の歴史のなかでも大きなトピックスなので、これをもっと活かしていくのは重要。 先日、海外出張の中で世界赤十字の発祥の地であるイタリアのソルフェリーノ市の市長から招待を受け訪れた。ソルフェリーノの丘というところは、イタリアの独立戦争での激戦地であり、そこでアンリー・デュナンという人が、どちらの軍でも傷ついた人たちを人道的な観点から救っていきこうという活動をはじめたことが、世界赤十字の発祥につながっているというストーリーがある。 一方、田原坂は西南戦争の激戦の地であり、日本赤十字の発祥の地。設立者は佐野常民という方で、アンリー・デュナンとつながる。こうした歴史的つながりを生かし、人道主義で平和を求める熊本ということの世界に発信していけば、世界中から人々が訪れる熊本につながっていくと思う。</p>	経済観光局	文化振興課 熊本城総合事務所
9	<p>■河川の利活用について 回遊性を高めるという話もあったが、拠点ができてもつながらないとまち全体が良くなる。熊本は、白川や坪井川などいい川があるので、その沿線をうまく整備していくといいと思う。全国で災害が起こり、これから防災の見地からも川を整備・改修していくと思うので、その中で、歩きやすく、また商売ができることなども含めて考えていただくと安全で使いやすい川になる。</p>	<p>〔市長〕 例えば、東京では川や橋をライトアップしたり、海外でも川沿いの道は昼も夜も有効に活用されている。 白川でも大甲橋の緑の区間という河川敷で、地域の皆さんが「白川夜市」というイベントを定期的に行っており、すごく盛り上がっている。地域の商店や若者がマルシェを出したり、子どもたちも楽しめる取組をしているので、市としても国とも協力しながらもっと水辺を活用していく。 また、熊本駅前の河川敷では、加藤清正より前の時代から続いている植木市を開催するなど、国の協力のもと活用が進んでいる。こうしたことをスポットごとにやっていきたい。 また、熊本駅前でいうと、白川口を出て産業道路の方に行くと、河川敷のところに広い歩行者スペースがあり、そこで屋台などを出して夜市などのイベントができるようになっている。坪井川も含め、水辺空間を整備していくことは大事。 また、日本の街路灯は上から照らすことが多いが、欧州では下から上手に照らしている。昼間も、マルシェなどデザインが統一されている。そうした夜間照明や景観を揃えていくことは重要だと思う。まちの質を高めるうえではデザイン性も考えないといけない。川のライトアップも大事で、白川は夜暗く、もう少し明かりがあるといいと思うので、ライトアップなどの景観にも気を付けていきたい。</p>	中央区役所 都市建設局	中央区まちづくりセンター 熊本駅周辺整備事務所 都市整備景観課 河川課